

「出逢えたことに感謝」

岡山県 定林寺 寺族 東海林裕美
じょうりんじ しょうじひろみ

私はお寺で過ごす日々の中で多くの方々と接し、それぞれの方が歩んだ「人生のお話」をお聞きする事があります。今日は、その中のお二人の「生き方」をご紹介します。

お一人目は、親が決めた結婚で一人息子を授かった後、訳あって離婚。しかしその方は、人一倍信仰心が篤く、朝夕お経を唱える生活を送っていらっしやいました。息子さんも大変親孝行な方で、母親に寄り添いながら日々を過ごされています。その方はいつも「世界中で、私ほど幸せな者はいない」と話されていました。まさに「幸せは、自分の心の持ちようが決める」という教えの通りです。小さな幸せに気づかず、不満ばかり言い人のせいにする人々が多い中、ハツとさせられる一言です。

お二人目は、短い結婚生活の後、出征した夫が戦死、子供もなく、その後もお独りで過ごしてこられました。九十歳近くになり、七十年もの長い間、お独りで護ってこられたお墓を「墓じまい」したいと、お寺の共同供養墓へご供養されました。そして次はご自分の終活を考え、戒名、葬儀、納骨までの段取りを、施設のケアマネージャー、社会保険労務士、弁護士の方々に相談し、すべてを準備されました。そしてその数か月後、女性は自宅で倒れたのですが、ご自身で救急車を呼び、病院の待合室で息を引き取られました。全てが生前準備した通りに執り行なわれ、さまざまな手続や整理も、手筈通りに終えられたのです。ご家族や、お身内もない方でしたので、私もご葬儀、納骨に立ち会わせていただきましたが、今でも忘れることのできない最期でした。

人は何かの使命を持ち、生まれてくるのでしょうか？生きている間は懸命に生き抜き、振り返ればその道が築かれて行く……。お二人から「与えられた今を、大切に！」そして「強い心を持ちながら生き抜いていく！」そんな尊い生き方を学ばせていただきました。仏教で「今を生きよ！」と説かれる言葉の意味を、真に感じさせるお二人の人生。お二人に出逢えたことに、私自身あらためて感謝しています。